

成田
 歴史
 玉手箱

40回

歴史と伝統文化の
 まち・成田。市内に
 は、歴史ある文化財
 が多数あります。



趣向を凝らしたことしの芸能大会 平成16年8月22日)



芝バレーボール大会

家が空っぽになるほどの芝区最大の行事



男性は裸足でハチマキ姿、女性はモンペに地下足袋が芝のスタイルだった(昭和43年ころ、中野猛氏、飯田健司氏所蔵)

むかいしば むかいばら しいのき
 向芝・向原・椎ノ木の5地区対抗
 芝バレーボール大会。誕生のきっかけは、この2年前の東京オリ

ピックで“東洋の魔女”と呼ばれた女子バレーボールチームの活躍があったとされています。それ以前は「二百十日」の前に台風除けを祈願する「風祭」が、親睦を兼ねた芝区の伝統的な行事でした。

当時はバレーボールの経験者はほとんど無く、初めての準備や選手集めは大変なことでした。「草刈りや整地、水道敷設などの会場整備、手製の大型物差しでラインを引く、区長宅の山から杉の木を伐採しネットを張る柱を作り、テントなど足りない用具は久住第二小学校から借りました。また、参加者に飲物や弁当を配る予算も無く、区内の酪農家から牛乳を寄付してもらい、アンパンを昼食として皆さんに配りました」と懐かしそうに振り返ります。

こうして始まったバレーボールは、第一にみんなが楽しむことが最優先されます。ルールは9人

「仕事や結婚などで芝から出て正月やお盆にも帰らなかった若者が、この時には芝に帰って来るとですよ」と、口をそろえる元役員の方々。この時とは昭和41年から始まった古内・芝ノ作・

制でアンダーサーブのみ、メンバーが不足した場合は同じ地区の男女間で補充、試合は男女各5地区の総当り戦で優勝を争います。好プレー・珍プレーのたびに会場は拍手と笑顔でいっぱいです。コートサイドでは子どもたちのかわいい声援と対戦相手からのやじや冷やかしが入り混じり爆笑の渦が。

小さな集落とはいえ地区が異なれば見知らぬ人も多く、このバレーボール大会で初めて顔を合わせることも。お嫁さんやお孫さんは「公園デビュー」ならぬ「バレーボールデビュー」です。上手なお嫁さんがいると「いい嫁もらったなあ」と旦那さんの株が上がり、横ではお婆さんが「父ちゃん動くな！ に任せろ！」といった具合で1日があっという間に過ぎて行きます。10年前からはバレーボールが終わると、カラオケやダンスなどの芸能大会も催されています。農家にとって稲刈り前のつかの間の休息ですが、どの家も空っぽになるほど赤ちゃんからお年寄りまでが参加する芝区最大の行事となりました。



現在も昼食時に配られるアンパンは芝バレーボールの伝統(平成2年の第25回大会より)

編集後記

ことは市制施行50周年ということもあって、本紙も含め過去の歴史を振り返るような企画が目につきます。そこで必ず必要になるのが古い写真。何十年も前の写真は、それ自体貴重な歴史資料です。中でも貴重なのが、風景や街並みを撮

ったもの。ところで皆さんの家には近所の景色を撮った写真はありますか。将来価値の出ることも……。6ページで紹介した「参道周辺の今昔風景展」はそんな写真がめじろ押し。もしかすると昔の自分や家族に会えるかも知れませんよ。